第2回生涯学習審議会
資料1－1

学校施設活用の推進について

１.町田市教育委員会における取組

（１）教育プラン 24-28【重点事業 36】

町田市教育プラン 24-28 に『学校施設活用の推進』を定め、地域にお住いの方々が学校を普段使いできるよう、利用申込のシステム化や学校施設の地域利用方法の仕組み整備について検討を進めています。

（２）今後の学校づくり

【市民生活の拠点づくりの基本理念（町田市新たな学校づくり推進計画）】

地域と学校が連携・協力するためのスペースの確保や、学校施設のさらなる地域開放、他の公共施設等との複合化によって、多様な人々が学校に集い、教育活動・放課後活動などを通じた連携・協働や、スポーツ・生涯学習、地域活動その他の市民活動を通じて、市民が交流し活動する愛着ある地域拠点となるような環境を目指し、整備を進めています。

【地域活用型学校】

「地域活用型学校」とは、学校を教育活動の場にとどまらず、地域活動の拠点、地域のコミュニティの核とすることです。防災拠点、スポーツ・生涯学習・地域活動等を通じた交流拠点として、地域の多様な人々が集い、活動できる場を目指します。

２．市民参加型事業評価による評価

町田市では、市民の声を市民サービスの向上に活用するため、市の事業を、市民が評価し、改善につなげる「市民参加型事業評価」を実施しています。

２０２４年度は６つの評価対象事業があり、そのうちの１つとして生涯学習センターの実施事業である特別教室開放を含む「学校施設開放事業」が選ばれました。

（１）事業評価の流れについて

① 事前準備

事前に評価人と事業所管課で「論点整理ミーティング」を２回実施し、
評価当日に向けて対象事業の理解を深めながら課題抽出及び論点の整理を行います。

② 評価当日

・１１月１０日(日）実施
・１事業あたり対話５０分、評価２０分の計７０分で実施。
対話（５０分）：事業所管課による事業概要の説明（５分）
評価人チームと事業所管課との話し合い（４５分）
評価（２０分）：各評価人による評価結果の検討、傍聴者等によるアンケート（５分）
評価人チームによる評価結果の発表（１５分）
・評価人の構成（応募者から抽選によって選出）
コーディネーター１名、有識者評価人２名、市民評価人１名、高校生評価人：３名

※事業評価の区分…①「満足できる事業である」、②「一部改善すべき」、
③「大いに改善すべき」、④「市が行うべき事業ではない」

③ 改善プログラム策定ミーティング

２月頃開催予定

（２）評価結果

②「一部改善すべき」

『取組自体は市民にとって意義深いものである。
今後は、実施方法や個人利用の促進、受益者負担について改善していってほしい。』

（３）評価人からの主なご意見

・地域の方がより利用しやすいしくみにするとともに、より多くの方に学校施設が利用できることを知ってもらえるよう、施設予約システムを導入する必要がある。

・ターゲット層の拡大のため、団体登録者による利用に加えて、個人利用もできるよう検討してほしい。

・市民センターなど他施設利用者との整合性を図るため、利用料を徴収すべきである。

・利用料については、施設の老朽度合いや活動内容（町内会や子ども団体による利用）、利用区分（個人利用/一団体で独占利用）、利用者の年齢等を勘案した上で金額を設定する必要がある。

・支払い方法はキャッシュレスの方が良い。予約システムで利用申込みと一緒に支払いも済ませられたら便利だと思う。また、学割やポイント制もあったらなお良い。

・利用促進で様々な意見がある一方、あくまでも学校開放は有効利用のためのものであり、学校の本業に支障がない範囲で行う必要がある。教員負担を増やさないしくみを検討する必要がある。

（４）今後のスケジュール

２月上旬頃、「改善プログラム策定ミーティング」が実施され、改善プログラムの決定が行われます。そのため、今回の評価結果を受け、改善プログラム（案）を検討しておく必要があります。

３．本日頂きたいご意見について

これまでの学校施設開放事業における課題や町田市教育委員会の目指す方向性、市民参加型事業評価のご意見を踏まえ、下記２点についてぜひご意見をいただきたい。

① 学校を中心とした地域のつながり（地域コミュニティ）をつくるためにはどのような仕組みや環境整備が必要か。

② 学校を活用してどのような地域活動が行われると、より地域コミュニティが活性化するか。